

神奈川県山梨教会連合会たより

かりん

「多くの願いに導かれて」

須賀院明德先生は昭和十九年四月六日、須賀院義雄師、幸子氏の三男として武蔵恵比寿教会でお生まれになりました。

親の願い、そして大学進学に伴って入られた金光教東京学生寮で中山亀太郎先生や学生会に触れたこともあり、昭和四十三年に金光学院へ入学され、翌年、教師の補命を頂かれます。

父の願いを受け、関東への布教を模索する中、昭和四十七年に武蔵小杉へ単身布教に出られました。

今年が開教四十年の節年を迎え、秋には記念のお祭りをお仕えになられます。

Q…新規布教されたきっかけは何ですか？
明德先生（以下、明）…私が生まれた当時、父は恵比寿に布教していました。それが空襲で信州へ疎開することになったため志半ばで途絶え、戦後、三代金光様のお取次を頂

いて上田へ布教することになりました。その父の関東へ布教する…という強い願いが、私が新規布教を志した元にあると思います。

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第34回 武蔵小杉教会 須賀院明德先生



Q…見知らぬ土地での布教にはご苦労があったのではないですか？
明…まず布教地を決めることが大変でした。いく

つもの物件を回り、やっと決まりかけても、宗教の名前を出すと白紙に戻ってしまうのです。あきらめて上田へ帰って学校の先生を志すも、父の篤い願いを受けて思いとどまっていました。

そうこうしているうちに、恵比寿布教時代の信徒の友人が上田へお参りになり、武蔵小杉へ教会を…と願っているという話を

されました。聞くと、ある九州の教会で信心を頂かれた方々が武蔵小杉近辺におられ、その九州の教会長始め皆で、以前から教会の開設を願っていたということでした。そこへ父が私の話をする、トントン拍子に話が進んでいったのです。

父の願いと、遠く九州の教会からの願い、そしてその信徒の願いと、多くの願いが一つになって私が武蔵小杉へ導かれたように思います。

初めは金光教ではなく「世事悩み事相談所 今日もどうぞの家」という看板を掲げての布教でしたし、今となっては笑い話ですが、夜に星が見えるような建物での布教もありました。そういう中を通して頂いて、今年で開教四十年を迎えることができました。

今は、教会を挙げて秋の記念行事に向けて取り組んでいます。

○ありがとうございました。（村田光治）



この度、連合会長福田光一先生の下、副会長として再度御用させて頂くこととなりました。皆様には、どうぞよろしくお願い致します。

さて、連合会長同様、副会長として三期目を迎えさせて頂いたわけですが、振り返りますと、その間、先生方から「連合会が見えない」とか、「ビジョンがない」とか、今のままでいいのかわか、「連合会を活性化させなければいけない」等、多くのご指摘を頂きました。もつともなご意見だと思えますが、その度自問自答されたことは、「連合会とは何か」ということでもあります。

教規には、連合会の目的として、「教会連合会は、教会が連帯して、地域における教団活動を推進するため、教会活動の互助連絡及び布教活動等を行うとともに、教区活動を担う」と明記されていますが、教規に則ったような連合会活動を、実際に実践することができずであるのか、との思いを持ちました。また教師会の場合も、互助連絡を中心に教師としての質を高めていく場であればいいのではないかと、この思いでありました。

副会長という立場で、このような思いを持つことは、間違えかもしれませんし、自ら

「連合会に思う」あれこれ

副会長 南 清孝

の力の無さは素よりであります。各教会がそれぞれの布教の歴史や布教形態を持ち、教会の責任者である副会長が自らの考えや意志、また信徒と連帯して教会活動を推進しているという現実の中で、教会の枠を越えた連帯がどうやって築けるのか、また何のために連帯し、何を目指して連帯していくのか等、自ら問われた次第です。

今思うのに、この問い全てに答えることはできませんが、神奈川県山梨県内の信奉者一人ひとりが、金光大神様のご信心を背負って、世の中に連帯して向い、ご信心を現していることだと思えます。そのためにもどのような活動を連帯して実践していくのか、どのような人材を育てていくのか、「布教と連帯と育成」との視点に立って、全体を見ていくことがあるのだと思えます。

今年から、育成部長に安達幸則先生（相模原教会長）が、布教研修部長には横山光雄先生（丸子教会長）が就任下さり、「連合会をどうにかしたい」との思いで、その任におあたり下さることは、真にありがたいことでもあります。教師信徒一体となつての連合会活動が願われる中、皆様とともに連合会活動を進めてまいりたいと思えます。

かりんの輪

「おかげを頂いて」

藤沢教会 藤田 稔

未来の陸軍大将を夢見て勉学に励み、栄えある廣島陸軍幼年学校に入校したのは、昭和二〇年四月一日、私が十四才の時であった。

B 29 による空爆が増え、阿南陸軍大臣の指令により、全校生徒と教職員合わせて約千人が広島県の山奥の中学校に分散疎開したのが六月九日であった。こうして将来ある若人が原子爆弾による被災を逃れたのである。

八月一日から七日迄の一週間夏季休暇が与えられ、私は広島市内の同郷（新居浜市）出身の伊藤さんのお家を訪ねてゆつくり夏休みを楽しんでいた。たまたま同郷の数学の教官、佐々木先生が訪ねてこられ、「藤田君、吉田町の私の官舎に一日寄って行きませんか」とお誘い下さった。「喜んでお伺いします」と私は答えた。

こうして佐々木先生と私は八月五日の夕方、伊藤家を辞し、先生のお宅に夜遅く着いた。その翌日、八月六日の朝、先生御夫妻と私が朝食をとっていた八時十五分、広島市に原子爆弾が投下されたのである。

私は十四才にしてこれ以上のおおかげを頂いたのである。神様は佐々木先生と私を世の中のお役に立ちなさいと生かして下さい

○第21回「首都圏女性の集い」報告

2月11日、銀座教会を会場に87名参加の下、有意義な研修をさせていただいた。

新運動について講師の大木先生は「お礼を土台に」と題して、お取次の現場、少年院との関わりから、現代の根っこにあるもの、問題を生み出すもの、生きづらくしているものを見ていくことの大切さを、具体例を挙げながらお話くださった。

最初に、教師の方のお取次から、問題を抱えている子のことは、その背景に親や社会があり、それをほどこいていかなければ助からないのではと話された。突拍子もない行動をとる子の母親は、学校が悪い、教育委員会に訴える、挙句の果てには裁判所に提訴すると言うばかりで、その子と向き合おうともしない。周りの子供たちも教師たちも無関心。そんな中でその子はどんなに寂しい思いをしているのか、心のキズを抱えているのか、そのことに想いを寄せて向き合っていくことが大切ではないかと。少年院では、お礼をし感謝をして幸せになろうと話をした後で、「オレは別に幸せになりたくない」と返され、言葉の奥にあるもの、見えないものを見ていないということも少年から突きつけられショックを受けるとともに、信心の眼でなく合理的なものに流されている自分に気付かされたと言われる。

また、万引きをした子は、「なぜ人のもの

を取ってはいけないのか」と言う。事情を聞くと、あまり食べてなくてお腹がすいてたまらなくて、スーパールの菓子パンを取って家に戻ると母親にほめられ、頭では分かっていたても次々と犯罪を犯すようになっていった。ある子は、事情があつて祖父母に育てられていたが、母親に会いたくてたまらなくなり訪ねたら、「あんた何しに来たの。もう来ないで。私には私の人生があるのだから」と言われ、その時何か壊れたと。このように書いていても胸が痛み涙が出てくるのだが、犯罪の奥には、いろいろな事情があることを忘れてはならないのだ。大木先生はその時、辛いんだよ、助けてくれよという声が聞こえるようで、ただただ祈るばかりだったと話された。

これらのことを通して、私たちは価値をどこにおいて生きていくか。人間を格付けしてみたり、何ごとも商品の対象とするのではなく、人を神の氏子として見る。自分は何を信じて物語を作っていくかが問われている。みんな問題を抱えて生きているのだが、それらを神様の事柄として受けていくかどうかにかかっていると、重い課題を投げかけられたが、なぜか心は爽やかだった。

(吉岡裕子)



さつたのだと思った。今にして思えばその時から、金光大神様は私を導いて下さっていたのだと思う。

私は石油技術者として生きて来て無神論者であった。昭和三十二年六月二十二に現在の家内、良子と結婚し、翌二十三日に家内の両親と共にご本部参拝した。良子は曾祖父、祖父母、父母と三代続く熱心な金光教の信心家庭に育ち、信心継承四代目である。私が尊敬している祖父青野市太郎氏と母加藤ヨシの真心、真摯な信心の姿を見て、何の抵抗も無く金光教の信者になった。

結婚以来六十年近く、私は研究と仕事が多忙で、あまり教会にはお参り出来ていないが、家内は生涯の熱心な信心を積み重ね、子どもも孫も信心継承ができていくことは有難いことである。

金光大神様のおかげで昭和三十七年大阪大学より工学博士を授与されて以来、石油学会論文賞、学会賞、潤滑学会功績賞、日本技術士会会長賞など多くの賞を頂いた。また、技術図書も十冊出版した。現在八十四才になるが年十回以上の講演をこなし、五社の技術顧問を行い、世のため、人のために御用させて頂いている。

金光大神様にお礼の毎日である。

金光大神様はいつもそばについて下さり、御神米を胸に、健康で、生涯現役で、社会貢献させて頂きたいと念じている。

平成 26 年度 神奈川山梨教会連合会

天地金乃神大祭日程

教会名	日 程
津久井教会	4 月 19 日 (土) 13 時 00 分
甲府教会	4 月 20 日 (日) 13 時 30 分
鎌倉教会	4 月 27 日 (日) 13 時 30 分
登戸教会	4 月 27 日 (日) 13 時 00 分
横浜西教会	4 月 27 日 (日) 13 時 30 分
南甲府教会	4 月 28 日 (月) 11 時 00 分
藤沢教会	4 月 29 日 (祝) 11 時 00 分
大明教会	4 月 29 日 (祝) 13 時 30 分
横須賀教会	5 月 3 日 (祝) 13 時 30 分
子安教会	5 月 3 日 (祝) 13 時 30 分
丸子教会	5 月 3 日 (祝) 13 時 00 分
相模原教会	5 月 3 日 (祝) 14 時 00 分
生麦教会	5 月 5 日 (祝) 13 時 00 分
鶴見教会	5 月 11 日 (日) 13 時 00 分
大磯教会	5 月 14 日 (水) 13 時 00 分
野毛教会	5 月 17 日 (土) 13 時 30 分
平塚教会	5 月 17 日 (土) 13 時 00 分
神奈川教会	5 月 24 日 (土) 11 時 30 分
小田原教会	5 月 25 日 (日) 14 時 00 分
武蔵小杉教会	5 月 25 日 (日) 11 時 00 分

連合会から

これからの行事のご案内

○教師信徒共励会

日時：① 5 月 31 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 30
② 8 月 30 日 (土) ~ 31 日 (日)

※会場など詳細につきましては、

今月中旬に各教会宛お知らせします。多くの方のご参加をお待ちしております。

○女性のつどい

日時：7 月 4 日 (金) 13 : 00 ~

会場：横浜西教会

○みんなのつどい

日時：7 月 26 日 (土) 10 : 00 ~

会場：こども自然公園 (予定)
内容：アスレチック探検と、

空き缶炊飯、バーベキュー

※詳細につきましては、

各教会宛送付されます

ポスター、チラシをご参照ください。
(6 月上旬の発送を予定しています)

「福田俊雄先生を偲んで」

津久井教会 小星重治

大震災や台風にも耐えてきた築 150 年、蔵造りのお広前、古民家再生で趣ある教会再建をと考えてきたが、今回の大雪で潰れ、その直後、三代教会長の福田俊雄先生がご帰幽になり、先生が中学生のころ何回も夏休みを過ごしたという思い出の津久井教会、先生が最後の力で支えて下さっていたのかと思わされた。

前教会長の文明先生が亡くなり 21 年、俊雄先生始め多くの先生方をお迎えしてお祭りを仕え維持してきたが、教会ご家族に先生になっていただく望みも絶たれ、信者は私ども夫婦と兄嫁だけ、お広前がいっぱいだった昔が嘘のよう。

冬は真っ暗の中、懐中電灯で鍵を開け誰もいない教会への朝参りもさみしいもの。結界取次が主体の本教、教師が常在せず、お祭だけの教会を再建維持する意味があるのだろうか？何事も無駄はなさらない神様が願われるこの教会の在り方を、初代の願いや長い間使わせていただいた建物への御礼を含めて考えてみたい。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒 221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五
金光教神奈川教会内